

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【授業担当者】

所属/職名: グローバルセンター/教授

氏 名: 畝田谷 桂子

|   |   |
|---|---|
| 授業科目名   | グローバル実地研修【地域人材育成プラットフォームかごしまグローバル教育プログラムの実地 |
| 研修先<br>(大学・国・都市名)   | 西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)                     |
| 研修期間  | 令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 25日                 |
| <p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>本研修の目的は、1)鹿児島地域の課題の解決に向けて、地域課題をグローバルな視点で捉える力を養成すること、2)地域のグローバル化に貢献できる英語力、3)多文化共生をコミュニティで率先して構築するための異文化理解力を養うことである。</p> <p>具体的な内容は、鹿児島市と47年にわたって姉妹都市関係を構築している豪州パース市にて、5週間、一般家庭にホームステイしてパース市民と生活を共にしながら人的繋がりを構築し、豪州屈指の西オーストラリア大学英語教育センター(The University of Western Australia, Center for English Language Teaching, 以後UWA、CELTという)で、毎日午前は英語集中コースで英語力を高めた(総計100時間)。午後は、パース市を学ぶ実地見学や、UWAで日本語を学習している現地学生との交流、博物館や動物園、農園やマーケットの視察・関係者へのインタビュー等、研修において各自が事前演習科目で設定した課題について調査を行った。</p> <p>本研修は、全学学部生を対象にした学部横断型「地域人材育成プラットフォーム」の中の「グローバル教育プログラム」の必修科目であり、本研修の受講要件は、事前科目として定められた、鹿児島地域課題等を学ぶ5科目9単位(英語による授業(4単位2科目)含む)である。研修後には、プログラム全体(16単位)の総括を行い、本研修において各自が設定した課題について報告発表を行う事後演習科目1単位があり、修了に16単位を要する一貫した教育プログラムの一部である。</p>  |   |
| <p>〔研修の成果〕 *事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>第1に、地域課題をグローバルな視点で捉えるという目標については、各自、本プログラムのコア科目で深めた知識を基にして、事前学習科目で鹿児島地域の課題について興味のあるテーマを決め、テーマに関してパースで行う調査計画を立てた。その計画に基づいて、各自調査結果を得て帰国した。個々の学生の報告書には、すでに様々な気づきが記されており、目標は達成されているが、今後さらに、収集した情報に基づいてプレゼンテーションを作成する事後学習科目でも、この視点を深めて行く。第2に、英語力については、5週間にわたるCELTの集中講義と現地でのホームステイを含む生活体験で、全員が向上したと回答しており、成果が自覚されている。今後、伸びを可視化するため、TOEIC、TOEFL等の受験を促す。第3に、多文化共生をコミュニティで率先して構築するための異文化理解力についても、各自の報告書にエピソードとともに、新たな気づきが記載されている。すなわち、生活上の小さな問題に如何に対処し解決したか、自分とは異なる対応への遭遇や態度の発見など、生きた経験からの貴重な学び「物事の捉え方や態度の変容に関する自覚」が見られる。この異文化理解力は、すなわち、グローバルコンピテンスの基盤をなす、「態度」や「価値観(複眼的なものの見方や価値観への気づきと理解)」を意味する。</p> <p>これらは、従来学生の報告書や、主観的自己評価アンケート等で個別に確認されてきたが、教育取組のインパクト測定や評価、大規模データの中での位置付け等が困難なことから、客観的評価が求められている。このため、今回、BEVI(Beliefs, Events, and Values Inventory)という心理学と心理統計学の理論を基盤とする、非認知能力を包括的、客観的に測定する直接評価テストを用いて、事前事後の学生の変容を測定した。この結果、グローバルコンピテンスに関連する尺度「世界との共鳴」「社会文化的オープン性」が顕著に伸びた他、殆どの領域「世界の理解」「他者の理解」「自己の理解」「批判的思考」「中核的欲求の充足」で統計的に有意な正の結果が出た。紙幅がないため詳細説明は追って別稿とするが、BEVIの結果と学生の主観的評価から、本支援基金の目的である「地域のグローバル化や活性化に資する人材」の基盤をなす、グローバルコンピテンスを備えた人材育成に、本研修が十分な成果を挙げたことは明らかであると言える。</p> <p>今後、「地域のグローバル化や活性化への貢献」は、それぞれの学生の専門と興味によって、異なる形で具体的に現れて来る。その具体的な貢献の片鱗と可能性は、第1の目標で行った調査の成果発表(地域人材育成プラットフォーム成果報告会:1月開催予定)で可視化される。</p> |   |
| <p>〔今後の課題〕</p> <p>担当教員は2022年度で定年退職となる。最後の担当の機会、世界各国で5万回以上実施されている客観的評価ツールBEVI (<a href="https://jp.thebevi.com/about/validity/">https://jp.thebevi.com/about/validity/</a>)が使用でき、良い結果を得たことはプラスであったと思う。今後、新たな担当者が、個性と能力を存分に活かして、教育取組をさらに豊かに発展させて行くことを確信し、期待している。</p>  |   |